

様式第 1 号 (第 6 条関係)

会 議 録

会議の名称	西東京市地域情報化計画策定審議会 (第 17 回)
開催日時	平成 15 年 8 月 29 日 (水) 午前 9 時 30 分から 11 時 30 分
場 所	田無庁舎 203 会議室
出席者	(委員) 麩会長、佐藤副会長、井坂委員、林委員、宮部委員 (事務局) 坂井企画部長、河村企画部情報推進課長、大和田情報推進課係長、株式会社日本総合研究所
議 題	1 . 域情報化基本計画 (案) について 2 . その他
会議資料 の名称	西東京市地域情報化計画策定審議会第 17 回会議次第 西東京市地域情報化計画策定審議会名簿 西東京市地域情報化基本計画 (案)
記録方法	発言者の発言内容ごとの要点記録
会議内容 発言者名	発言内容
事務局	第 17 回西東京市地域情報化計画策定審議会を開催いたします。 議題に入ります前に、新委員の紹介をいたします。総務省関東総合通信局情報通信部長の岡田委員が人事異動となりましたため、新委員として総務省関東総合通信局情報通信部長 林浩靖氏が就任されました。
林委員	林です。どうぞよろしくお願いいたします。
事務局	それでは、会議に入ります。会長、よろしくお願いいたします。
麩会長	お忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。議題は地域情報化基本計画 (案) についてです。今回を含め、あと 2 回の会議を開催する予定となっています。 それでは、事務局から前回からの変更・修正点について説明をお願いします。
事務局	主に、前回の審議会やメールでご指摘いただいた部分を変更・修正いたしました。具体的に説明させていただきます。 16 ページです。調査結果のグラフを挿入しました。 28 ページです。実現のための方向性の部分で、電子会議室の脚注を挿入しました。 29 ページです。実現のための方向性の部分で、「技術的セキュリテ

ィ対策の積極的な導入」ではなく、「セキュリティ技術の積極的な導入」という表現にしました。

26 ページです。前はなかった「行政の情報化の現状と課題」という項目を新たに作成しました。

21 ページです。一般市民向けと小中学生向けのアンケートが混在しており、わかりにくいとご指摘がありましたので、これを分けて記述しました。

7 ページです。前回までは、「NPOや地域の情報関連事業者などとも幅広く連携」と記述していましたが、わかりにくいとのご指摘がありましたので、「地域を構成する市民およびNPO、事業者、行政が協力関係のもと、地域情報化に自ら積極的に取り組むことが必要です。この活動を推進するため、三者が幅広く連携するための基盤づくりや市民、事業者を支援するための仕組みも整える必要があります」という記述に変更しました。

3 ページです。「ふれあい」「やさしさ」「新しいかたちのコミュニケーション社会の創出」の「 」や“ ”の記号の使い方が統一されていないとのご指摘がありましたので、記号の削除/統一をいたしました。

30 ページです。この表題のみ、「やさしい」という表現を使っていましたが、他の表題との統一性を考え、その表現を削除しました。また、「すべての利用者が IT を使いこなせるようになる」という表現が、教え込むようなニュアンスにとられるとのご指摘がありましたので、「すべての住民が IT の恩恵に浴する」という表現に変更いたしました。

33 ページです。情報化コスト、ランニングコストが記述されていますが、それと同時に、既存のシステムのコストもその中に含める必要があるのではないかというご指摘がありましたので、既存のシステムの見直しも含めて、「現状の情報通信システムの評価・見直し」という表現を追記しました。

64 ページです。情報公開に関係しますが、請求されなくても積極的な情報公開の推進を図ろうと思っておりますので、優先して実現したい推進施策におけるホームページの充実の部分に、「市が提供しているサービスや市が保有している情報で公開が望ましいものについては、積極的に公開するものとし」と記述しました。

69 ページです。行政の情報化において重要となるのは人材であるとの認識のもと、行政内部で IT に精通する人材を育成することと同時に、外部からもそのような人材を登用することも重要ではないかというご指摘がありましたので、庁内に CIO を設置することと併せて、外部から

<p>会長</p> <p>井坂委員</p>	<p>CIO を補佐する「専門員」を設置することについて記述しました。</p> <p>44 から 67 ページ（見開き構成）における情報化施策に関連する部分で、本市では「IT による情報化」と「人による情報化」が重要であると言及しているにもかかわらず、「人による情報化」が見えにくくなっているというご指摘がありましたので、分野別に「連携が必要な地域のプレーヤー」という項目を設け、その分野に関係しそうな主体を記述しました。</p> <p>25 ページです。市は、携帯電話、CATV、コミュニティ FM に関して西東京市の電波カバー率を把握しておく必要があるというご指摘がありましたので、それを調査し、調査結果を記述しております。</p> <p>47 ページです。アメリカでの大停電の事件を考慮すべだとのご意見をもとに、「災害時に携帯電話の利用が制限された時でも情報の受発信ができるよう」という記述をいたしました。</p> <p>62、63 ページです。行政手続関連の情報化に関して、当たり前過ぎるというご指摘を考慮し、表現の変更・修正、追記を行いました。</p> <p>また、全体を通して、本文中の単語とその脚注をわかりやすくしたり、フォントを統一したりしております。</p> <p>その他、3 章については庁内の各関連部署に内容の確認をお願いした際、原課からの要望によって、一部訂正した部分があります。しかし、前回の文章とほぼ同じです。</p> <p>3 章は 2 ページの見開き構成を想定しております。左ページは西東京市の現状と課題、取り組んでいきたい方向性・施策で、右ページは左ページが実現した場合のイメージです。原課からの指摘で、エピソードを読むと、これがすぐに実現するのではないかと思うかもしれないため、近い将来に実現するという表現にして欲しいという指摘がありました。事務局でもこの指摘に関して、このままにするか、それとも違った表現にするか検討しております。</p> <p>また、前回土屋委員からのご指摘のありました計画を市民に対してどのように PR するか、また、PR する施策自体を計画に記述してみてもどうかということについては、本日検討していただきたいと思います。</p> <p>以上が、前回会議を検討した変更・修正点です。</p> <p>ありがとうございます。今の事務局の変更・修正点に関して意見はありますか。後ほど各章ごとに検討します。</p> <p>64 ページです。優先して実現したい推進施策の部分に関して、「ホームページの充実」という内容ですが、もっと具体的な記述の方が良いと思いますし、それと同時に、行政の姿勢としては少し消極的な印象があ</p>
-----------------------	---

事務局	<p>ります。この部分に関しては、事務局ではどのように考えていますか。</p> <p>実は、現在、情報公開用のシステムを構築しているところです。目録に関しては、庁内ではホームページから検索できるように構築するという事は決まっています。この決定をこの部分（64 ページ）で表現しました。しかし開示請求までは今のところ庁内では決定しておらず、具体的に記述するのが少し困難な段階です。</p>
井坂委員	<p>個人的な意見では、構築することが決まっているならば、明確に記述しても良いかと思えます。</p>
事務局 宮部委員	<p>この部分は、もう少し具体的に記述するように検討・調整いたします。</p> <p>西東京市のホーム ページを実際に見ました。その感想は、各課で同じような情報が揃っているわけではありませんが、確かに情報、コンテンツは豊富で、充実していると思います。しかし、市民の立場に立つと、求めている情報に到達するのが難しいという印象を受けました。</p>
髙会長	<p>昨年の市民会議でも、西東京市のホームページは情報が充実しているという意見があったように思います。</p>
佐藤委員	<p>井坂委員の指摘は、65 ページのエピソードの部分を読むと納得・理解できます。左（64）ページの施策が実現した場合を右（65）ページのエピソードに書くと関連があるかと思えます。しかし、今のような話を聞くと事務局がそれを記述する難しさが理解できます。</p>
髙会長	<p>確かに、右（64）ページと左（65）ページが整合的ではないと思えます。右（64）ページをもっと具体的に記述すること、右（64）ページと左（65）ページの整合性を検討してください。その他は何かありますか。</p>
宮部委員	<p>前回の審議会で私が指摘した部分については、概ね修正いただいています。</p>
髙会長	<p>それでは、各章ごとに検討しましょう。まず、「第 1 章 地域情報化推進の基本的な考え方」です。何か意見ありますか。</p>
井坂委員	<p>2 つあります。1 点目は、22 ページの「コールセンター」に脚注を挿入することです。この言葉は市民には分かりにくいと思えます。</p> <p>2 点目は、25 ページの「カテゴリー別」を「分類別」にしたほうがわかりやすくないでしょうか。このカテゴリーという言葉は、脚注で分類という意味で使うと解説されています。それならば、脚注を使わず、分類と記述した方が市民も理解しやすいと思えます。</p>
髙会長 林委員	<p>他に何か意見はありますか。</p> <p>13 ページの「デジタルディバイド」の脚注の解説です。「情報技術の習得度の違い」とありますが、それだけではないと思えます。つまり、パソコンの性能や通信速度などといったアクセスする環境の違いによっ</p>

<p>齋会長 井坂委員</p>	<p>ても格差が生まれます。したがって、「情報技術の習得度やアクセス環境の違い」と記述した方が良いと思います。</p> <p>次に、「第2章 地域情報化を推進するために」について検討します。</p> <p>1点目は、30ページの本文の部分です。人材育成のための「セミナー」という言葉があります。それに対して、その前ではIT「講習会」という言葉を使っています。カタガナを少なくする意味では、研修会などに変更してはいかがでしょうか。</p> <p>2点目は、30、31ページの市民実態調査の部分です。「フェース to フェース」、「ディベロッパー」という言葉ですが、分かりやすい言葉に変更する必要はないですか。</p> <p>3点目は、29ページで、グラフの項目の文字が小さいことです。言葉をつめるなどして文字をコンパクトにしてもっと見やすくした方が良いと思います。</p>
<p>齋会長</p>	<p>井坂委員の1点目の指摘ですが、このセミナーという言葉は一般的に使っており、理解できないことはないので、とりあえずこのままで良いと思います。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>井坂委員の2点目の指摘ですが、私も気になりました。しかし、これは市民実態調査からの抜粋なので、市民の方が書いたそのままの言葉を使用しているのだと思います。したがって、この部分も変更する必要はないと思います。</p>
<p>齋会長</p>	<p>井坂委員の1点目、2点目の指摘の言葉に関する問題ですが、これらは言葉を変えず、「セミナー」「フェース to フェース」「ディベロッパー」という現状の言葉を使いましょう。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>井坂委員の3点目の指摘ですが、私も同感で、もう少し表の項目の字を大きくした方が良いと思います。それに加え、回答数が大きい項目順にし、最後にその他の項目があるというグラフに変更するべきでしょう。</p>
<p>宮部委員</p>	<p>31ページにも関係しますが、地域人材の活用は記述されていますが、ITに精通した人材を育成するという視点が少ないと思います。人材育成に関する行政の支援やその計画など、人材育成に関する地域との連携などを記述した方が良いと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局としては記述したいですが、難しいと思われます。この部分は検討させていただきます。</p>
<p>宮部委員</p>	<p>検討する際には、どのような順番で実施し、どの部分を重点的に行うかといったことを検討した方が良いと思います。</p>
<p>齋会長</p>	<p>人材に関しては、この計画書の中では「連携」という言葉が使われています。31ページの実現のための方向性を見ると、「IT人材バンクの検</p>

<p>宮部委員 佐藤委員</p>	<p>討」「地域の人材が連携する組織・ネットコミュニティの活用」とあります。確かに、人材育成という側面が希薄に感じられます。したがって、例えば、地域（地元）の学術機関に期待するなどといった人材育成にも取り組んでいる表現を記述した方が良いでしょう。</p> <p>研修補助などの人材育成の面を追記すると良いと思います。</p> <p>金銭的な都合がつかなくても、大学は動くと思います。それと同時に、大学にとっても連携していただけると非常にうれしいと思います。</p>
<p>齋会長</p>	<p>最後に、「第3章 地域情報化の推進施策」について検討しましょう。この第3章は、「1 四つの方向性を実現するためのIT活用」「2 四つの方向性を実現する施策」「3 推進体制と方向性」の3つに区切り、検討しましょう。では、「1 四つの方向性を実現するためのIT活用」について、何か意見はありますか。</p> <p>まず、私から疑問点を1点挙げます。「1 四つの方向性を実現するためのIT活用」と「2 四つの方向性を実現する施策」を比較した場合、「1 四つの方向性を実現するためのIT活用」の「IT活用」という言葉の使い方は正しいのかということです。特に、広報誌の扱いです。これは「こころポリシティ」の発想に合致しているのですが、表題である「IT活用」と結びつくかという疑問が残ります。</p>
<p>宮部委員</p>	<p>これについては、表題で「IT(の活用)」と記述しているので、広報誌の扱いが難しくなるのだと思います。「IT(の活用)」と記述するのではなく、例えば「情報活用の方法」と書くのはいかがでしょうか。このように書けば、情報媒体やメディアといった言葉も含まれると思います。また、この「1 四つの方向性を実現するためのIT活用」の項目には、ICカードの記述もあり、ICカードはメディアにアクセスするための手段です。このように考えると、この「1 四つの方向性を実現するためのIT活用」の項目には、情報とその手段の2つの内容が記述されることとなります。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>「四つの方向性を実現するために」で止める方法もあります。しかし、「2 四つの方向性を実現する施策」と基本的には一緒になってしまいます。</p>
<p>齋会長</p>	<p>この「1 四つの方向性を実現するためのIT活用」という表題は、「情報伝達手段」という言葉に仮置きしておき、次回の審議会で検討しましょう。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>「1 四つの方向性を実現するためのIT活用」の内容で、地域コミュニティ FM、地域ケーブルテレビが取り上げられていますが、固有名詞を出したほうがわかりやすくないでしょうか。</p>

事務局 麩会長	<p>宣伝していると思われるので、それは難しいです。</p> <p>IC カードに関して、住基カードと関連すると思いますが、西東京市として IC カードは具体的に取り組んでいるのでしょうか。</p>
事務局	<p>庁内に、IC カード検討部会という部会がありまして、そこで現在検討しているところです。住基ネットのカードが発行可能となり、その多目的利用に関して、どのように取り組んでいくかを主に検討しております。将来的には、地域の IC カードに対する取り組みについても検討事項となっております。</p>
麩会長	<p>これは生活に直結しています。市民が現在使っているカードや住基カードとの関連の問題もあります。このようなことに対して、IC カード検討部会は具体的に何か提示できる段階なのでしょうか。</p>
事務局	<p>いいえ、現在、IC カード検討部会は、その段階ではありません。行政で発行している多数のカードに関しては、一枚に統一していく方向となっており、そのためには IC カードが必要であるという段階です。</p>
井坂委員	<p>36 ページの「地域ポータルサイト」という言葉です。53 ページに「コミュニティポータルサイト」という言葉が出てきており、「ポータル」という言葉の説明を行うならば、53 ページではなく、36 ページの方が良いと思います。</p>
事務局 麩会長	<p>実は、22 ページに「ポータルサイト」の脚注があります。</p> <p>「ポータルサイト」「地域ポータルサイト」「コミュニティポータルサイト」という 3 つの言葉が登場しますが、「地域ポータルサイト」と「コミュニティポータルサイト」の言葉の違いは何でしょうか。</p>
井坂委員	<p>一般的には、「地域ポータルサイト」は西東京市を代表するポータルサイトで、「コミュニティポータルサイト」はある共通の興味（例えば、剣道、野球、サッカーなど）を持った人が集まったポータルサイトという意味だと思います。22 ページの解説より、53 ページの「ポータルとは『入り口』という意味であり、・・・」という説明を 22 ページの脚注で記述した方が良いと思います。</p>
佐藤委員	<p>「1 四つの方向性を実現するための IT 活用」の広報誌（41 ページ）についてです。この部分は紙媒体で情報発信することをもっと強調すべきだと思います。ネットワーク時代において、自宅からホームページで情報を入手することができるのにもかかわらず、なぜ「紙」なのか。これはある意味では時代に逆行していると一般的には捉えられるところだと思います。しかし、それが重要なのであって、ホームページでも情報発信するけれども紙でも行う、すなわち、IT を持っている人だけでなく、IT を持っていない人にも平等の情報を与えているという主張をもっと</p>

<p>麩会長</p>	<p>すべきであると思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>64 ページは、一般的に広報誌で情報発信しているのではなく、西東京市は意図的に行っているという表現を使いましょう。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>事務局としては、ホームページが電子的なポータルサイトならば、広報誌は電子的でないものを扱う、つまり、紙のポータルサイトという認識です。それをこの広報誌の部分で記述したかったのですが、広報誌を紙のポータルと記述するのはわかりづらいと思いましたが、その表現は避けました。</p>
<p>麩会長</p>	<p>紙媒体というのは非常に重要で、例えば、NPO、NGO の活動を知った理由として、ホームページを見て活動を知ったという人は非常に少なく、広報誌、テレビ、新聞、ラジオを通して知ったという人が多いです。そう考えると、広報誌は入り口（ポータル）であり、このことを是非伝えたいと思います。</p>
<p>井坂委員</p>	<p>次に、「2 四つの方向性を実現する施策」について検討しましょう。個人的には、施策の方向性、優先して実現したい推進施策、その他の推進施策と3段でカラーになっており、非常に分かりやすいと思います。</p>
<p>麩会長</p>	<p>48 ページの「ISO14001」に脚注が必要だと思います。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>たしかに、脚注が必要だと思います。</p>
<p>井坂委員</p>	<p>44 ページ以降、色が使われていて、とても読みやすいのですが、分野別の表題（紫色の部分）が PDF だとパソコンの画面上だと見にくいので、PDF で配信することを考えているならば、このデザインを変更すべきだと思います。</p>
<p>井坂委員</p>	<p>また、エピソードの記述が現在の話か否か理解しづらい部分がありますので、その部分の記述を修正した方が良いと思います。</p>
<p>麩会長</p>	<p>見開き構成で、右のページの上には「…関連の情報化が進むと…」という言葉あるので、現在の話ではないということが理解できると思います。しかし、まず絵が目飛び込んで来て、「情報化が進むと…」を見過ごす可能性があります。</p>
<p>事務局</p>	<p>中間答申では「エピソード」と使いましたが、市民から指摘はありましたか。</p>
<p>宮部委員</p>	<p>ありませんでした。</p>
<p>麩会長</p>	<p>中間答申の時に使って、市民から何も指摘がないならば、あえて変えない方が良いかもしれませんね。</p> <p>先程の説明で、関連部署にこの計画書を見せた時、近い将来に実現するという表現にして欲しいという指摘があったとおっしゃられたので、ここは事務局で検討していただきます。</p>

佐藤委員	<p>また、左ページと右ページの整合性もチェックして下さい。</p> <p>エピソードという言葉があいまいなのかもしれません。エピソードは未来だけでなく過去の出来事を差すこともあります。したがって、エピソードという言葉は抜くか、誤解を避けるため、新しい言葉にするか検討したほうが良いかと思います。</p>
齋会長	<p>この部分は、次回までに事務局で検討してください。</p> <p>他に意見はありますか。</p>
林委員	<p>50 ページに関して、明らかに学校のことを言及しているのにもかかわらず、学校が「連携が必要な地域のプレーヤー」の部分に出てきません。</p>
佐藤委員	<p>教育機関という言葉を入れる必要があると思います。</p>
齋会長 事務局	<p>56 ページについて、地元の商工会などの意見も含まれていますか。</p> <p>一度ヒアリングを行い、庁内の産業関連の部署と検討を行った結果を記述しています。</p>
齋会長	<p>他に意見はありますか。</p>
井坂委員	<p>64 ページの優先して実現したい推進施策で、「自動交付機の設置」とありますが、政府は今後設置しない方針だと思います。例えば、住民票は住基ネットで対応します。この部分で、自動交付機の設置と記述すると、これから自動交付機の設置台数を増やしていくように捉えられると思います。むしろ今後は自動交付機をなくしていく方向に進んでいるのではないかと考えています。これに関して事務局はどのように考えていますか。</p>
事務局	<p>我々も自動交付機はなくなっていくという認識です。しかし、実際の窓口業務を考えると、これはまだ重要な位置付けとなります。電子申請や電子認証が一般的になるまでにはもう少し時間がかかると思います。したがって、電子申請や電子認証を本格的に利用するまでのつなぎとして自動交付機を設置しようと考えております。</p>
井坂委員	<p>ただ、これは計画書であり、これに記述することは、これから自動交付機の設置台数を増やしていくように認識されると思います。西東京市では、自動交付機の設置台数を増やしていくつもりなのでしょうか。</p>
事務局	<p>現在、自動交付機を市内に4箇所設置しております。これに加えて、4箇所を設置する意図が市民課にあります。この市民課の意見を62ページの優先して実現したい推進施策に反映しました。</p>
宮部委員	<p>自動交付機は窓口に行く手間が省け、便利なので、ある程度、あるいは最低限の自動交付機の設置は必要だと思います。しかし、井坂委員のご指摘のように、この部分に記述するとこれから設置台数を増やしていくように認識できるので、記述しなくても良いかもしれません。</p>

<p>麩会長</p> <p>事務局</p>	<p>62 ページには「自動交付機の設置場所を拡大する」とありますが、本当に拡大するのでしょうか。</p> <p>無制限に設置台数を増やしません、必要最低限の台数は増やすつもりです。合併計画においては、窓口から遠い市民の煩わしさを解消するために、自動交付機を設置する意図を示している、その合併計画との整合という意味もこの 62 ページには含まれています。</p> <p>委員の方からのご指摘のように、この表現では設置台数をどんどん増やしていくように捉えられる可能性がありますので、表現を検討したいと思います。</p>
<p>宮部委員</p>	<p>67 ページのエピソード部分ですが、行政内部の話をもっと簡単に記述した方が良いと思います。</p>
<p>麩会長</p> <p>井坂委員</p>	<p>確かに、もっとわかりやすい表現に変えたほうが良いと思います。最後に「3 推進体制と方向性」(68 ページ以降)を検討しましょう。</p>
<p>井坂委員</p> <p>麩会長</p> <p>事務局</p>	<p>データセンターに脚注を入れた方が良いと思います。</p> <p>データセンターの活用は行っているのでしょうか。</p> <p>一部では行っていますが、今後、さらに活用していこうと思っています。</p>
<p>井坂委員</p>	<p>資料の用語解説ですが、五十音順で単語を並べ、脚注番号とそのページ数をそこに記述する方が良いと思います。</p>
<p>麩会長</p> <p>佐藤委員</p>	<p>全体を通して、何か意見はありますか。</p> <p>回を重ねるごとに充実し、レイアウト、デザインなど、非常に読みやすくなっています。</p> <p>私たち関係者はこれまでに何度も読み直しており、第一印象が薄れていると思います。したがって、このように完成に近い状態になったものを、最終チェックとして関係者ではない人に読んでもらうことが重要であると思います。</p>
<p>麩会長</p> <p>事務局</p>	<p>今の佐藤委員の意見と、この計画書を市民に PR していくという土屋委員の指摘とは関係あると思いますので、これらを併せて事務局は検討してください。また、この計画書を市民に PR する方法について、事務局では現在どのように考えていますか。</p> <p>一般的ではありますが、完成したものを「お知らせ」の形態で広報誌に載せる方法を考えております。それに加えて、広報誌に「情報化」のコーナーを作り、そこに情報化施策などについて説明する方法も考えております。後者の方法はまだ広報課と調整をしていないので、現時点では確定的なことはいえません。</p>
<p>麩会長</p>	<p>この計画書を市民に PR する方法について、各委員の方の意見はあり</p>

<p>宮部委員 事務局 井坂委員</p>	<p>ますか。 市役所などに何部か置きますか。 図書館や情報公開コーナーに何部か置く予定です。 一般的には、広報誌に特集を組む方法があります。また、概要版をつくり、市民に身近なところに配布・設置する方法があります。</p>
<p>麩会長</p>	<p>この計画書は、他市と比べると非常にユニークであると思います。したがって、是非近隣の自治体にも配布してください。</p>
<p>宮部委員 事務局</p>	<p>この計画書を町内会に一部ずつ配布する予定はないのでしょうか。 それは考えていませんでした。その他では、昨年開催されたシンポジウムに参加した人にお知らせする方法があると思います。</p>
<p>麩会長</p>	<p>最後に今後のスケジュールですが、最終答申の予定はいつ頃になりますか。</p>
<p>事務局 麩会長</p>	<p>10月頃の予定です。 すでに完成に近い状態となっているので、次回の会議は完成したものを用意し、それを答申することで良いと思います。それまではメールベースで議論行いましょう。 では、本日の会議を終了します。</p>